

与 議 第 68 号
令和 8 年 9 月 17 日

与 論 町 長
殿
与論町教育委員会教育長

与論町議会議長 沖野一雄

令和 7 年度与論町各会計決算審査意見の申入れについて

町議会の活動につきましては、かねてから多大な御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、令和 8 年第 3 回与論町議会定例会において実施した令和 7 年度与論町各会計決算審査の結果、町議会としての意見を集約決定しましたので、下記のとおり申し入れます。

つきましては、今後の行財政運営の改善に役立て、決算審査の意義や目的が果たされるよう御配慮ください。

記

町議会としての意見

- 1 島内での移動手段は、タクシーやレンタカーへの偏在化が続いており、路線バスの利用者は伸び悩んでいる。一方、安価な移動手段として路線バスは欠かせないものである。今後策定予定の地域公共交通計画では、現在の路線バス運行の在り方や、代替手段について需給バランスを見据えた検討を行うこと。
- 2 地域おこし協力隊は、本町の課題解決に必要な人材であるが、諸事情により任期途中で退職を選ぶ場合もある。現場の課題と協力隊のスキルとのミスマッチが一因であると考え。既に各担当課でもフォローアップに努めていると思われるが、今後もこのようなミスマッチが起らないよう、人材の厳選と、協力隊の能力を最大限発揮できるよう、きめ細かな対応を心がけること。
- 3 高齢者の日常生活支援策として、ドライブサロン事業は利用者にも喜ばれており、今後益々需要が高まる分野であると考え。今後は各ポイント事業との連携はもとより、利用のための周知や、利用者及び支援するボランティア双方にとって負担感の無い仕組みづくり等を進め、持続的な運用に努めること。

- 4 星空観光は、観光コンテンツの新規事業としてこれまで集中的に予算措置されており、ある程度認知もされてきている。今後は自立型の運営にシフトするため、これまでの成果と費用対効果の検証をしながら、今後も観光コンテンツとしての定着を図ること。
- 5 本町最大の課題である少子化への対策として、結婚支援は非常に重要である。現在結婚新生活支援事業補助金を実施しているが、今後も国県等の動向を視野に入れつつ、結婚への動機づけとなる持続可能な事業導入を検討していただきたい。
- 6 堆肥センターの運営については、収支ともに厳しい状況が続いている。各種キャンペーン事業が導入され、農家負担軽減と堆肥の散布量向上には繋がっているものの、一時的な対策であり、今後も生産農家との協議を踏まえながら、根本的な運営の改善に努めること。
- 7 茶花・立長流域冠水対策は、浸透池予定地の下層は基盤岩土質で浸透効果は少ないことが考えられるが、洪水吐流末排水路の改良と併せて断面見直し等災害の無いような工事をしていただきたい。また、古里の増木名川中腹部氾濫防止のため、横断架橋の見直しやクズレ流末の閉塞対策を図っていただきたい。
- 8 乳幼児期の育児は、衛生品や身の回り品など大量に必要となるため、現在の乳児家庭全戸訪問事業による一回のみの支給を定期支給に替えるなど物資支援策の拡充と併せ、保護者の心身的負担軽減のため産後ケア事業のより一層の周知と利用拡大に努めること。
- 9 与論高校存続のためにも、中学校の段階から与論高校の魅力を PR し、併せて郷土愛の醸成を始め充実した教育を受けられるよう、中高連携をより密にして取り組むこと。